



園庭に木々の葉も落ち、冬の訪れを感じる季節になりました。

先日のみりのまつりは4年ぶりの開催でしたが、たくさんの方が足を運んでいただき大盛況でした。これもクラス役員、係の担当者を始め、保護者皆様の当日はもちろん前の日からの準備や段取り等、ご協力のおかげです。誠にありがとうございました。子どもたちもお母さんお父さんが楽しそうにされている姿が嬉しく楽しいバザーでした。収益は子どもたちのために使わせていただきます。

お知らせ

- ・7日(木)は、いちよう組、ぼぶら組の園児健診があります。
- ・6日(水)はたんぼ組、19日(火)はもも組の食事公開があります。6日はたんぼ組以外はお弁当の日です。
- ・20日(水)は9:00~歯科検診があります。
- ・29日(金)は保育納めです。保育を希望される方はお弁当を持ってきてください。

～たくさんあそんで器用になる～

ヒトの運動発達のはからだの中心から末端へ育っていきます。つまりからだの中心(体幹)がしっかりしていないと、肩のコントロールもうまくできないし、腕の力も育たない、手首のコントロールもできない、指先がしっかり動かないのです。子どもたちを「自分の思いどおりの作業ができる手」にするためには、手先の訓練が必要なのではなく、まずはリズムあそびや体をしっかり使ったあそびで体の軸をつくっていくことが大事になります。

ヒトの手の最大の特徴は、その高い適応性です。私たちの手はさまざまな形・大きさ・やわらかさのものを扱うことができます。豆腐や卵をそっと持ち上げることもできれば、ハンマーやのこぎりを力強く動かすこともできます。ポケットの中身をさぐったり、画用紙の厚みや、表裏のキメの細かさを感じるとる感覚器でもあります。

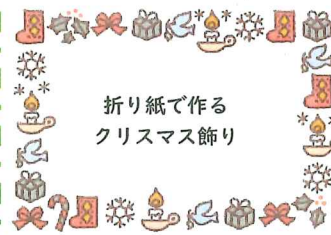
ヒトは指の動きをコントロールしたり、指先からの感覚情報を解析するために、脳の広い部位を使っています。子どもたちは手の操作やあそびを通して脳を発達させていきます。赤ちゃんの時期から手を動かす技術は何度も繰り返されるあそびの中で学習されていきます。

「興味のあるものを見て、手を伸ばし、触れて、握り、持ってあそび、たたき、なめまわす」手の動きのパリエーションを増やし、動きの技術を磨いていきます。

手は子どもの意欲や自立心によって発達していきます。多くの子どもたちは道具を使いたがり、自分でスプーンを使いたがったり、自分で着替えたがります。最初のうちは正しい使い方ではないかもしれませんが子どもたちは自分で考え、たくさん失敗を経験しながら道具の使い方や指の使い方を発見していきます。

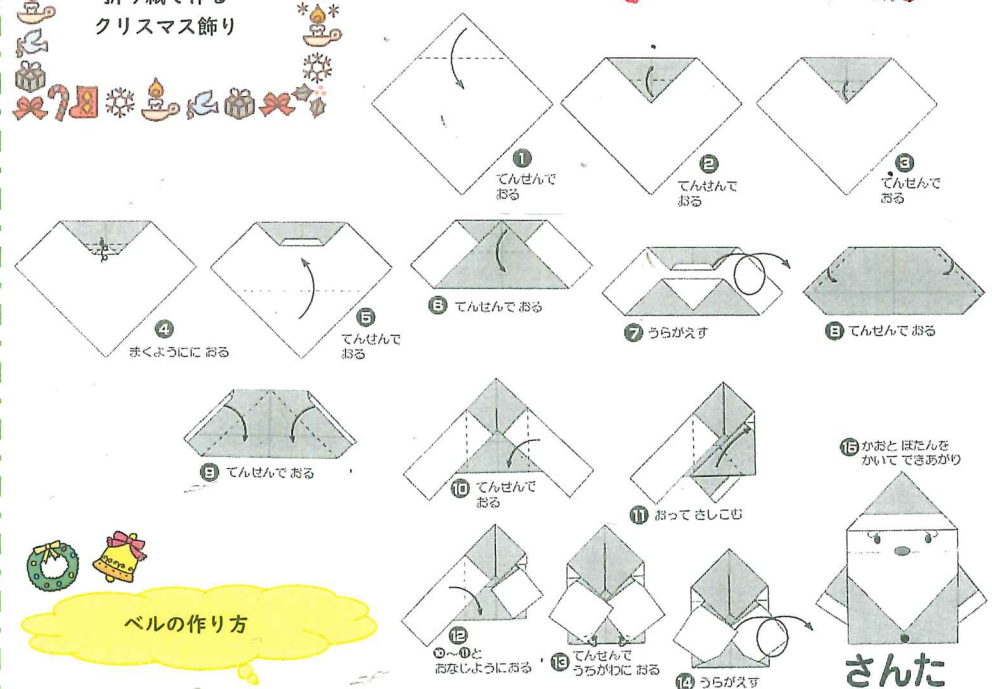
今から40年以上前の年長児の子は、ハサミ・針・糸が使い、包丁・ナイフが使い、ひもが結べ・ほどけ、マッチで火がつけられ・消すことができる「手」を持っていました。しっかりとした体幹に支えられ、あそびやお手伝いの中で自然に身につけた技術です。今の子どもたちはゲーム機や携帯で視覚のみを中心としたあそびが主流です。ヒトが生きていく上で身につけたい手の動きを得るには、小さい時からのあそびや道具を使う生活を大人が意識していく必要があります。子どもが使うもの(お弁当やエプロン、その他)はデザインにこだわらなくなるべく昔からある形のものをお選びください。結ぶ・ほどく・手首を回して開けるという手の動きをする機会が便利さを追求するがゆえに少なくなります。

いちよう組、ぼぶら組ではサンタクロースなどのクリスマス飾りを毎年、子どもたちと折り紙で折り部屋に飾っています。また、小さいクラスの子も大人が折った飾りをとても喜んで見えています。子どもたちも折れる簡単な折り方ですのでぜひ、お家でも作ってみてください。

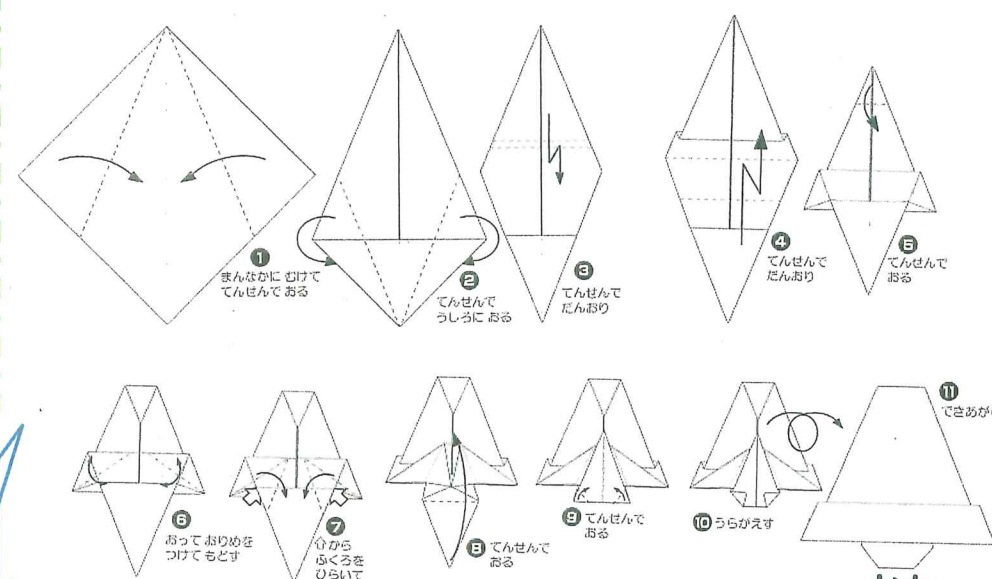


折り紙で作る
クリスマス飾り

サンタクロースの作り方



ベルの作り方



日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
行事	安全点検の日 保健師さん「命」の学習(ぼぶら組)					たんぼ組食事公開(お弁当の日)	園児健診(いちよう組・ぼぶら組)			ぼぶら組懇談会		避難訓練	誕生会	芋煮会			役員会	もも組食事公開	歯科検診		クリスマス会						餅つき会		保育納め(弁当の日)		

来年は1月5日(木)からです。